

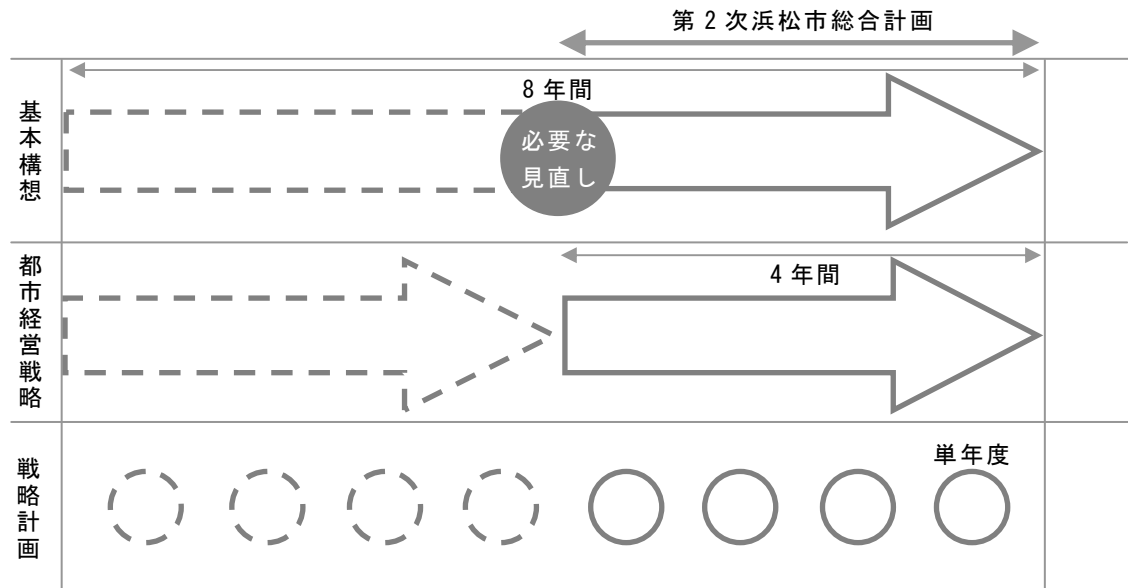
基本構想（浜松市未来ビジョン）について

○基本構想の位置づけ

<第2次浜松市総合計画>

基本構想は、本市のあるべき姿を明らかにする都市の基本理念や将来像を示すものです。

期間：平成 19～26 年度（8 年間）※平成 23 年度に改正



<新・総合計画>

「(仮) 浜松市未来ビジョン」は、次世代 (=30 年) における未来の理想の姿を指し示す基本構想とし、市民の皆様と共有するため、分かりやすく簡潔に表現します。

次世代に責任が持てる
「いま」を創造。

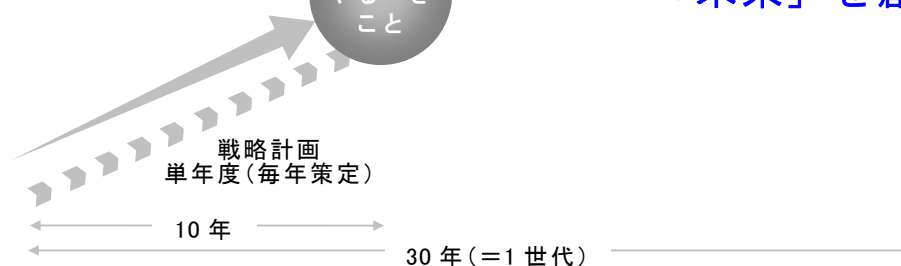
(仮)はままつやらまいか創造プラン
新・10年の計
(基本計画)

10年で
やるべき
こと

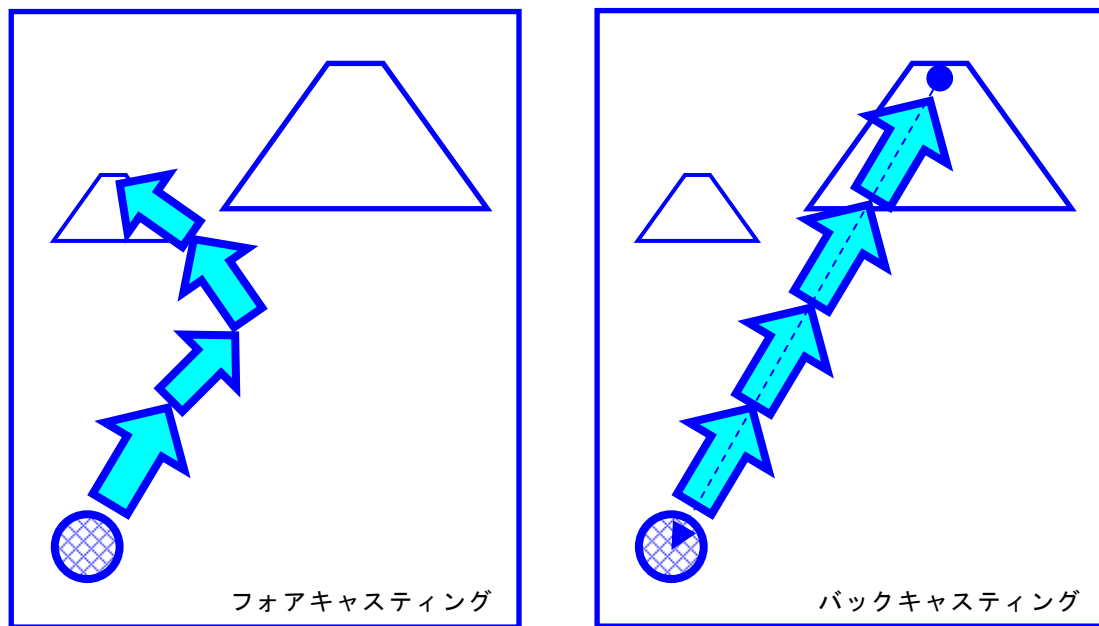
未来の
理想の姿

浜松市未来ビジョン
(基本構想)

世代を通じて共感できる
「未来」を創造。



○フォアキャストとバックキャスト



フォアキャスト（上図左）

過去のデータや実績に基づいて、積み上げ方式で目標を設定し、課題を解決していく考え方です。

短期目標の策定に向いており、企業の売上目標などによく活用されます。その時点では、最適かつ現実的な対応を選択できますが、必ずしも期待している未来に向かっているとは限りません。

バックキャスト（上図右）

長期目標を想定し、その目標に到達するための行動計画を設定する考え方です。

まず、「ありたい未来」「あるべき未来」を最初の段階で決め、その実現に向けて「いま」行うべきことは何かを分析し、実行します。

長期目標策定に向いており、国家や自治体の環境目標などに活用されます。積み上げではなく、まず目標を明確に設定し、課題の解決に取り組むため、進捗状況の確認が容易ですが、将来の目標についての意見を一致させることは難しくなります。

新・総合計画の策定は、バックキャスト方式で行います。まず「未来の理想の姿」を明確に定め、その達成に向けて正しい方向を見失うことなく着実に一步を進めてまいります。

浜松市総合計画 基本構想

浜松市未来ビジョン

(案)

目 次 (案)

01 はじめに

都市の将来像に「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を掲げる。
また、未来ビジョンは、浜松市の理想の姿であり、理想の世の中に向けて、市民、市民活動団体、企業、行政が活動していく旨を記す。

*市民協働を進めよう

都市の将来像実現に向けて重要な「市民協働によるまちづくり」の考え方を示す。

*いつまでもかがやく課題解決先進都市

人口減少や超高齢社会を迎える中で、持続可能で自立した課題解決型の先進都市を目指す旨を記す

*浜松はクリエイティブシティ（創造都市）

創造都市の定義と実現に向けた取り組み方を示す。

02 未来の理想のすがた

柱を7～24程度（今後協議）として、それぞれの考え方を示す。

** 未来の理想のすがた①～

<参考>

第2次浜松市総合計画基本構想

目 次

序章：計画の策定に当たって

第1章：浜松市の概要

地勢／交通／まちづくりのあゆみ

第2章：社会経済環境の変化

人口減少と少子高齢化／グローバル化／地球環境問題／揺らぐ安全・安心社会／国、地方自治体への構造改革の要請

第3章：浜松市の特性

ものづくり産業の集積／特色ある農林水産業／豊かな文化／世界を身近に感じることができる都市／恵まれた自然環境／全国に類を見ない地域の多様性／広域的役割／都市部から中山間地域に至る様々な特性と課題

第4章：都市の基本理念

第5章：都市の将来像

第6章：各分野の将来像

産業経済分野／教育、文化、スポーツ分野／防災、市民生活分野／環境分野／健康、福祉分野／都市・生活基盤分野／都市経営分野

第7章：各区の将来像

中区／東区／西区／南区／北区／浜北区／天竜区

はじめに

※※※浜松市の将来ビジョン※※※

市民協働で築く 『未来へかがやく創造都市・浜松』

浜松市は、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を将来ビジョンに掲げます。

かつて、先人たちは、英知の結集とたゆみない努力により、世界に誇る技術と文化を有する都市として、今日の繁栄を築いてきました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない本市が、ものづくりのまちとして自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行した輝かしい歴史を残しています。こうした本市の発展を支えてきた高い創造力や物事に果敢に挑戦する精神を、すべての市民の皆様のココロに共有し、希望に満ちた未来を創造します。

浜松で生きること誇りをもち…

※※※市民協働を進めよう※※※

現在も、福祉や子どもの健全育成、自然環境の保全など様々な分野において、市民や市民活動団体が自発的に活躍し、市民協働によるまちづくりの役割を担っています。こうした市民協働の輪を更に広げていくために、市民一人ひとりの意識を高めるとともに、市民協働の活動主体が活動しやすい環境づくりを進めます。

人は他人と関わりを持つことで存在意義が生まれます。市民協働は、未来において最も重要な考え方であり…

※※※いつまでもかがやく課題解決先進都市※※※

我が国は、世界で最も早く超高齢社会を迎えます。中国や韓国、その後はインドなどにおいて急速に高齢化が進みますが、日本は、世界で最初に対応が迫られおり、日本の動向に世界が注目しています。

人口減少・超高齢社会の下では、消費活動が停滞し、景気に悪影響を及ぼすとともに、市政運営に当たっては、税収の減少により市民サービスの低下が懸念されます。こうした課題をいち早く理解し、先進的に自立した都市経営を進めていけば、我が国のモデルとなり、さらには、全世界からも注目される都市になります。

本市は、都市部から中山間地域まである国土縮図型の政令指定都市であり…

※※※浜松市はクリエイティブシティ（創造都市）※※※

創造都市とは、地域における特色ある文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値を生み出し暮らしの質や豊かさを高める都市と定義されます。本市においては、音楽文化やものづくり産業における創造的な活動が、創造都市の推進に向けた代表的な存在です。

未来の理想のすがた

ここに**の未来の理想のすがたを示します。この理想に向かって、「いま」何をすべきかを検討します。

※※※未来の理想のすがた その1（イメージ）※※※

70歳の起業者が続出。 稼ぐ高齢者が消費活動を支えている。

超高齢社会を迎えると、生産年齢人口の割合が減少する一方で、高齢者にかかる医療・介護など社会保障費の増大や、一人暮らし高齢者の見守りなど、社会に対する負担が増大すると心配されています。

しかしながら、現在の平均寿命は80歳を超え、60歳で定年退職しても、20年間以上もの余生がある世の中になりました。また、高齢者の体力や運動能力は年々上昇傾向にあります。

30年後の未来では、高齢者が、スポーツや文化など生涯学習にいきがいを持って取り組み、自ら生活の質を向上させています。また、運動機能を維持させるため、健康増進の取り組みを意欲的に行うことで、基礎体力が更に向上します。医療機関においても、病気を治す医療から、自立を促す医療へと変換を遂げており、高齢者は、寝たきりや引きこもりになることなく、地域社会で元気に活躍しています。これにより、病院の待合室では、高齢者の数が減りました。

さらに、高齢者は、収入を得るために、週に4日以上は働いています。浜松では、いくつになっても無理なく楽しく働ける環境が整っているからです。消費活動は、高齢者が先頭に立って拡大させており、市場の活性化に大いに役立っています。これまで培った知識と経験を活かし、新しいビジネスを発見します。そして、更なる高みを目指して、満を持して起業します。

終生、地域社会とかわり合いを持ちながら、自立した生活を送り、社会から目標とされる存在となっています。